

脱・温暖化フェア2015

温暖化防止と適応策の検討をinひろしま開催

11月27、28日、広島県立産業会館で「脱温暖化フェア2015 inひろしま」が開催されました。このイベントは、国や県、団体や住民などさまざまな主体が、環境問題や政策を共有、啓発しようと企画しているものです。



クイズラリー終了者には省エネ、環境配慮グッズを配布(上)、温暖化クイズに挑戦(下)

今年度も、「建設技術フォーラム」「エコ・インベシジョンメッセ」と同時開催で、約1200団体が出展し2日間で約5000人が来場しました。



各TEAMが互いに活動をPR(上)、ブースでは気になるアイテムや工夫、近況など情報交換(中)、体験コーナーも大盛況(下)

脱・温暖化フェアでは、イベントの垣根を越え会場全体での一体感を創出するとともに、出展者間や一般参加者とのコミュニケーションの推進をねらい、会場全体を周遊するクイズラリーを企画しました。挑戦者には、各ポイントでの学びに加え、断熱

マットやエコバッグ、保存食品など省エネや環境適応につながるグッズ、出展団体からの粗品が手渡されました。グッズの配布を通じて、省エネや環境配慮商品の利用など、更なる取り組みの普及を図りました。

27日は、広島市立大河小学校4年生約60人が校外学習に訪れ、クイズに挑戦し、環境問題について学びました。また、島根県の浜田市地球温暖化対策地域協議会から約10人が視察に訪れ、広島県の地球

温暖化対策地域協議会(通称:TEAM)の活動について学びました。28日は、TEAMの面々が参集し、活動発表やエコ工作体験コーナーなどを行いました。脱温暖化センターひろしまのブースでは、IPCC第5次評価報告書の内容を解説報告する映像を流し、地球温暖化の現状を知らせるとともに、対策も呼びかけました。IPCC第5次評価報告書によると、地球温暖化は、人間活動の影響が主要因である可能性が極めて高いとし、緩和策と適応策の検討が必要としています。

23 世羅町公衛協
【学社融合事業の成果】

11月21日、世羅町にある世羅小学校で、学習発表会が開催されました。4年生68人は「世羅人ぬ宝(せらんちぬたから)」報道番組SRステーション」と題して、公衛協と世羅小学校との学社融合活動メニュー「水辺教室」を取り上げました。

公衛協のおもい次世代へ 世羅人ぬ宝をみんなで守る

生き物の種類や数が減ってきていることを呼びかけることから始まり、水質の変化について、八田原ダムの水質検査データを元に、「ここ数年は水質が改善されているが、窒素・リンが減っていない現状が報告されました。また、地元の人から教えてもらった川遊びや里山遊び、怒られたエピソードや採った生き物科・社会などの授業で学んだことが報道番組風に演劇にとりまとめられていました。

演劇は、自然の生き物たちに扮した児童が、環境の変化により、善されているが、窒素・リンが減っていない現状が報告されました。また、地元の人から教えてもらった川遊びや里山遊び、怒られたエピソードや採った生き物と報告。小さなたくさん生き物が、他の多くの生き物を支えていること、水が汚れると、小さな生き物が姿を消してしまうことを学びました。



川辺の昔遊びを披露する児童(上)、音楽に乗せて世羅人ぬ宝を守るメッセージを発信(下)

民との学習活動、体験活動の大切さを感じました。併せて、いろいろなものは買わないでゴミを減らす・お皿の汚れはふき取ってから洗う・ごみは分別し、資源を大切にすると環境宣言が発表されました。「自然を知ってほしい、感じてほしいと続けてきた水辺教室が、このような形で発表されて

非常にうれしい。川の汚れや自然の大切さ、自然との付き合い方を学ぶ良いきっかけとなっていると改めて感じることができました。」と曾我春雄会長。

今後も、学社融合の活動を継続し、地域の宝を知り、守る「コミュニティづくり」に期待したいと思えます。(地域活動支援センター)

我がまちの公衛協 ⑤



所属：廿日市市公衛協
お名前：今津 俊昭
公衛協歴：13年目
会長歴：13年目
世帯数：32,055世帯
推進委員数：299人

一致協力で活動を推進 平成25年に独立事務局設置

公衛協のPRや情報交流のきっかけとなるよう、市町公衛協会長に「わかまち」で力を入れている取り組みやその成果についてインタビューし、県内26公衛協の魅力をお伝えします。

Q1 力を入れている活動
廿日市市環境都市宣言の方針に従い、市民・事業者・行政の協働による地域環境の保全や地球温暖化防止に積極的に取り組んでいます。広島県アダプト(マイロード)、花いっぱい運動をはじめとする清掃活動団体支援のほか、ウォーキングなどの健康づくり、献血運動、海のクリーンアップ作戦への参加や地球温暖化対策はつかいちさくら協議会との連携に力を入れています。

Q2 活動成果
地域活動が根付き、そのおかげで住民の環境意識、健康への意識が向上したこと、獣医師会との連携で犬のふん対策が進んだことで、散乱ごみのないクリーンな街になってきました。不法投棄はまだありますが、年々減少しています。

また、昨年から発行している広報誌「公衛協だよりはつかいち」のほか、連携団体と発行する「はつかいち青少年健全育成新聞しゃぼん玉」を市内の全小中学校で児童・生徒に無料配布しています。情報提供、呼びかけに応じて、各種イベントへの積極的な参加も増えてきました。

Q3 苦労した点と解決策
推進委員の任期は2年。1年で交代となる場合も多く、役員や他の推進委員の負担

となっています。また、推進委員も参加住民も高齢化が進むこと、募金への協力が減ってくるなど、公衛協、コミュニティともに組織力の強化が大きな課題となっています。公衛協としての機能強化を図るため、平成25年、行政から独立した事務局を設立し、総務・環境健康・廃棄物対策の3部門を置きました。市町村合併以後、旧町単位で活動している大野・佐伯・吉和・宮島と協力し、課題解決を図っていきます。

Q4 会長のメッセージ
公衛協の活動は、推進委員をはじめ、住民、事業者、行政の協力が欠かせません。「一致協力」をモットーに、人には親切に、腹を立てず、笑顔で対応するように心がけています。(地域活動支援センター)